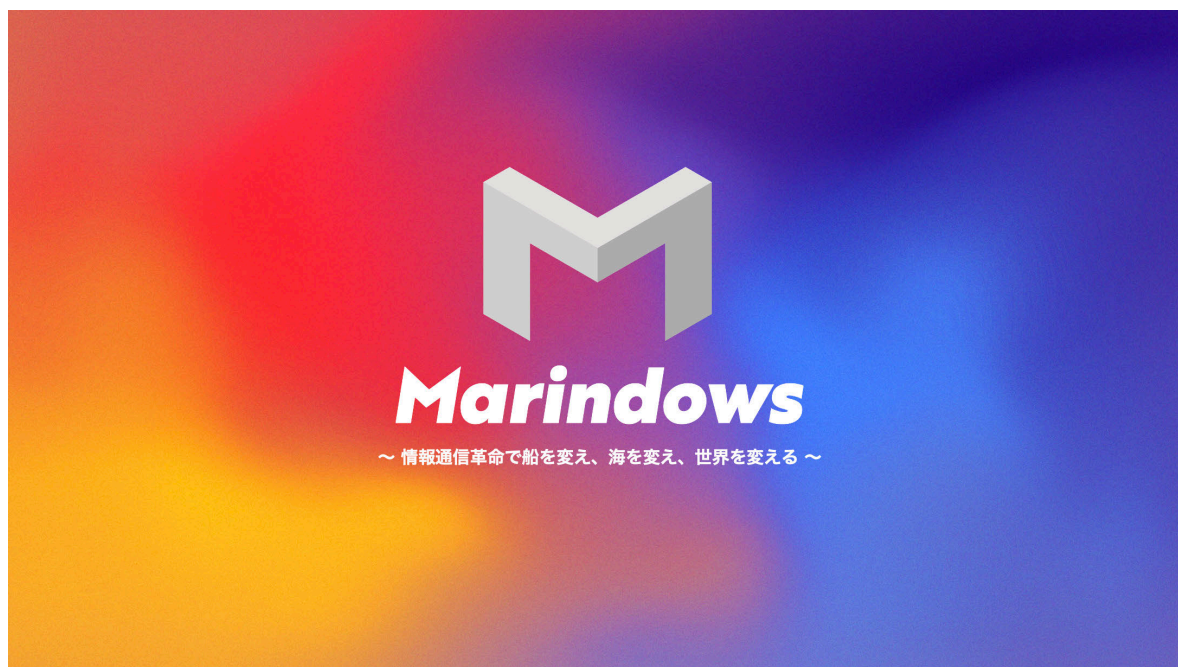


# 「Marindows株式会社」を設立

～海の世界の課題を情報通信革命で解決！世界初の海洋OS“Marindows”を展開～



旭タンカー、エクセノヤマミズ、商船三井、三菱商事4社のジョイントベンチャーとしてゼロエミッションEV船の開発を行う「株式会社e5ラボ（所在地：東京都千代田区大手町、代表取締役社長：一田 朋聡）以下:e5ラボ」は、世界初の海洋OS“Marindows”の開発と普及を目的とし、2021年3月3日「Marindows株式会社（所在地：東京都千代田区大手町、代表取締役社長：末次 康将）以下:Marindows社」を設立いたしました。

URL : <https://www.marindows.com>

## 【海事産業の抱える課題】

四方を海に囲まれた海洋国家日本の物流は、国内輸送の45%、海外輸送の99%を海上輸送が担っています。近年、その日本のライフラインを支える海事産業は、生産年齢人口の急激な減少に伴う担い手不足、乗組員の長時間労働や危険作業への対応、地球規模の環境課題対応、そして、中韓をはじめとした海外勢との熾烈な競争といった、解決することが非常に困難な社会・環境・経済課題に同時多発的に直面しています。海事産業の退勢は、日本の物流の衰退のみならず、日本の国力低下へとつながり、陸上におけるあらゆる業種業態へも様々なネガティブな影響をもたらします。

このような状況を鑑みて、国土交通省では海事産業における生産性の向上、魅力的な職場環境の構築、海事産業全体の事業基盤強化を目指して法改正を進めています(※1)。


※1 2021年2月5日、造船・海運分野の競争力強化、乗組員の働き方改革・内航海運の生産性向上等による海事産業全体の基盤強化を図る「海事産業の基盤強化のための海上運送法等の一部を改正する法律案」が閣議決定されました。

**【Marindows社の役割】**

海から陸を見渡せば、スマートシティに代表されるように、DXの推進はもはや1企業の枠を超え国家・行政レベルで取り組まれ、次世代のサービスやシステムが全く新しい価値とビジネスを創出しています。その一方、市場規模8.5兆円を超える海事産業は、通信環境整備の難しさや業界慣習など様々な障壁が多くDXが進んでいない市場です。その中で、2022年から次世代衛星による海上ブロードバンド通信（以下：海上BB通信）サービスが開始されます。

Marindows


海事産業に爆発的成長をもたらす情報通信革命 3 要素



海上BB通信

高速・大容量・低遅延

全ての船をオンライン化



DX  
クラウド

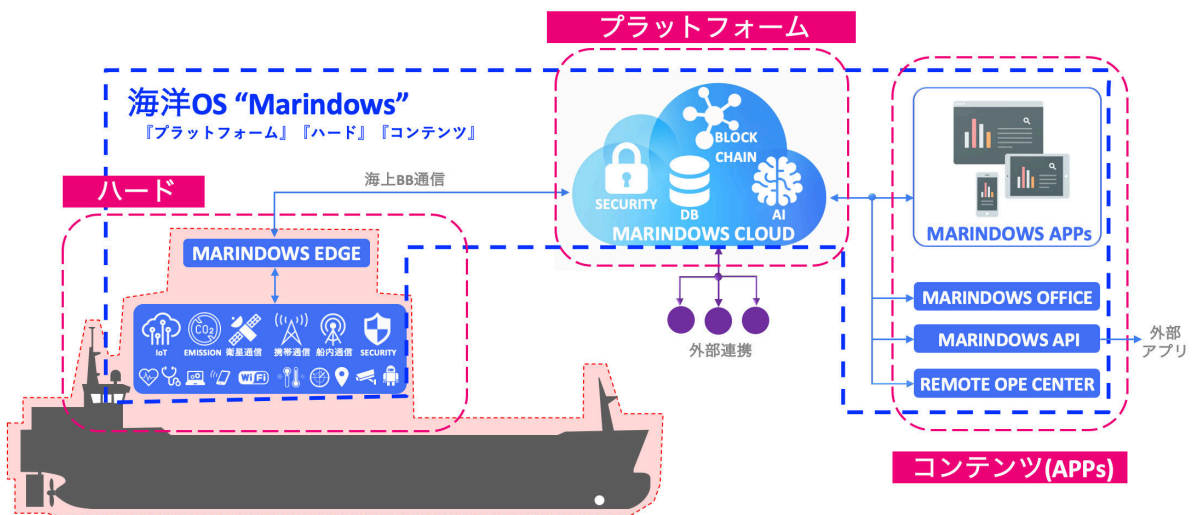
全ての船をデジタル化



AI

AIによってデータ活用が新しい価値を生み出す

Marindows社は、この海上BB通信時代の到来を見据えて、情報通信革命（海上BB通信・DX・AIの掛け合わせ）の力を取り入れた進化と拡張が可能な一気通貫デジタルプラットフォーム（海洋OS“Marindows”）を展開します。この海洋OS“Marindows”を起爆剤として、海事産業が抱える社会・環境・経済課題の解決を図るとともに、出資会社であるe5ラボが培ったあらゆる業界を牽引するパートナー企業と海事産業に新たな価値・市場を創造します。



海洋OS “Marindows”の基本構成図

『プラットフォーム』 『ハード』 『コンテンツ (APPs) 』を1つのパッケージにし、一気通貫で提供

## 【今後の予定】



- 2021年後半から2022年に本格化する海上BB通信の普及活動を開始
- 2022年春頃、乗組員・船主・船会社向け業務DXサービスをリリース予定（フェーズ1）
- 2022年以降、商船から漁船、プレジャーボートなどあらゆる領域にサービスを拡大
- 2022年以降、日本の海事産業のDX化・データ活用事例をもとにMarindows海外展開
- 2023年までに日本の内航船における海洋OS“Marindows”搭載率70%を目指す

海洋OS“Marindows”は新造船はもちろん、既存船でも簡易に利用できることが特徴です。フェーズ1では海上BB通信の普及と平行して、既存業務DX・データ活用による乗組員・船主・船会社向けの業務改善サービスの開発に着手しますが、それだけで業界課題が改善されるとは思っていません。海洋OS“Marindows”は進化し拡張するシステムのため、ステージを重ねる毎に、そして利用が増えるほど便利で賢くなるシステムです。海を通して日本から世界へと広がる海洋OS“Marindows”は、陸上のあらゆるシステムなどとも連携し、「陸」と「海」の両方から海事産業を持続可能性のある世界へと導いてまいります。



## 【SDGs実現に向けたMarindowsの6つのマテリアリティ】

### SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



## 【Marindows社概要】

- 名称 : Marindows株式会社（読み：マリンドウズ）  
所在地 : 東京都千代田区大手町一丁目1番3号  
代表者 : 末次 康将  
活動内容 :
  - ・ 海洋OS“Marindows”の開発
  - ・ 海事デジタルコンテンツの開発
  - ・ 海洋ブロードバンド通信の普及・促進
  - ・ 企業と企業をつなぎ、新たな価値を創造する場の提供
  - ・ 海事産業のDX推進支援



## 【株式会社e5ラボ（本社：東京都千代田区）】

e5ラボは船のEV化とデジタル化を通じて海運業を魅力的でサステナブルな産業へと進化させ、公益に資する新たな事業・社会インフラを創出することによって、社会と地球環境、そして海に関わる全てのステークホルダーに対して付加価値を提供し、次世代の為に海運の明るい未来を継承します。



▼本件に関するお問い合わせ  
E-mail : [project@e5ship.com](mailto:project@e5ship.com)

▼ WEBサイト  
<https://e5ship.com>

## 【共創パートナーからのコメント】

### 日本海事協会

#### 常務理事 事業開発本部長 高野裕文 様

このような先進的な取り組みに、サイバーセキュリティに関する共同研究という形で参加することを大変光栄に感じております。デジタル技術を活用したイノベーションはサイバーリスクと表裏一体の関係にあります。イノベーションの開発と普及が安全性への十全な配慮の下で行われるよう、本会はサイバーセキュリティに関する国際動向や最新情報に基づいて構築したベストプラクティスの提案を通じ、この取り組みを支援してまいります。

### ソフトバンク株式会社

#### 技術戦略統括 グローバル事業戦略本部 本部長 北原秀文 様

ソフトバンクは、すべてのモノ・情報・心がつながる持続可能な社会の実現に向け、企業活動や事業を通して、さまざまな社会課題の解決に取り組んでいます。情報通信の力によって海事産業を進化させることで新たな市場を創造し、DX（デジタルトランスフォーメーション）による産業基盤を構築するMarindows社と共創できることをとてもうれしく思います。われわれは、次世代衛星通信やHAPS（High Altitude Platform Station）といった最先端の通信技術およびAI・IoTを活用したデジタルプラットフォームが、世界の産業に変革をもたらすことができると確信し、デジタル化をより一層加速させることに貢献していきます。

### 古野電気株式会社

#### 取締役 船用機器事業部長 矮松一磨 様

古野電気では船用機器メーカーの枠を超え、本船データ収集に関わるエンジニアリング事業を展開しております。用途に応じた船内ITネットワークのデザインに加え、FOP (FURUNO Open Platform) を使って本船機器との連携を推進し、本船のIoTデータの統合化、一元化による効率的な活用を目指しております。今後Marindows社そして共創パートナー企業様と共に船用計器メーカーとしてのノウハウをベースとした、新しい形の船陸間通信とIoTデータ活用を通して次世代の海事業界の未来の創造を目指し共創できることを大変喜ばしく思います。さらに、これまで蓄積してきた現場レベルでの知見を元に、船用業界変革の動きが確実に実務に根付いていく活動となるよう貢献して参りたいと考えております。